

新型コロナ第7波、子どもの感染増加 広島でも小児科に患者集中

8/11 中国新聞

新型コロナウイルスの流行「第7波」で子どもが感染するケースが増え、広島市内の小児科に患者が集中している。広島県内の新規感染者のうち10代以下が占める割合は徐々に増え、約3割まで上昇した。手足口病など他の感染症の流行も重なり、小児科の混雑に拍車をかけている。「コロナの流行が始まってから今が一番忙しい」。こぼたけ小児科皮膚科医院（中区）の小畠牧人院長はそう語る。発熱外来を訪れる子どもは1日約20人。「発熱外来とその他の診察場所を分けたため、待ち合いスペースが足りない。切れ目なく対応しているが、これ以上の受け入れは難しい」と打ち明ける。市内の別の小児科医も「受診相談の電話が鳴りやまず、てんてこ舞いだ」と漏らす。

県新型コロナ対策担当によると、7月28日～8月3日の県内の新規感染者で年齢の分かる2万970人のうち、10代以下は5905人（28・2%）。6月30日～7月6日の1019人と比べ、約6倍となった。新規感染者に占める10代以下の割合は徐々に上昇してきた。2021年春の第4波で1割、21年夏の第5波で2割だったのが、今年1月ごろからの第6波と今の第7波では3割前後にまで増えた。担当者は「子どもの感染者が多いのはワクチン接種率の低さが一因かもしれない」とみる。7月末時点で、県内の12～19歳の3回目ワクチン接種率は30・1%。県民全体の60・8%の半分にとどまる。

新型コロナ以外の感染症が同時流行していることも、小児科に患者が集中する要因だ。乳幼児などの口内や手足に発疹ができる手足口病について県は7月21日、全域に警報を発表。鼻水や発熱が主な症状のRSウイルス感染症も目立っている。小畠院長は「発熱があればコロナ陽性も想定して対応するので、結果的に陰性でも診療に時間がかかる」と説明する。保護者はどう対応すればいいのか。岡野里香副院長は「ぼーっとしている、顔色が悪い、呼吸が苦しそう、といった症状があればためらわず受診を」と説明。一方で「熱があっても元気なら、急いで夜間に病院に行くより自宅で様子を見てほしい」。あらかじめ子ども用の解熱剤を用意しておくよう勧める。

今日のyoutube紹介下線をクリック

● “入院できている人は1割もない”重症患者も施設で治療せざるを得ず

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e12c3cd58a20a15766d4245fe9db01c307a93be7>

● 東京都、新たに3万1247人の感染発表 3日連続で2万人超の高止まり 重症40人、死者22人も公表 全国累計感染者は1500万人を超える 新型コロナ

<https://news.yahoo.co.jp/articles/3c8aac14112cd9c15a268a7c302bf9f4777bd5dc>

● 駅前の抗原検査センターは行列…お盆帰省ラッシュがピーク 大分

<https://news.yahoo.co.jp/articles/3dab71286b41c08ca749df13557b2a8dfe00d8eb>

● お盆休み 身構える医療現場 重症者じわり増加…人の移動ピーク

<https://news.yahoo.co.jp/articles/849c92c26de6c5df2cf67b1cbc5fbbbe37e1ec7c6>

● 行動制限のないお盆・もし旅先で感染が分かったら？

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e6f17b45c0e4a9e8ef33dfa8b60c8e650fa4abb6>

● 新型コロナ感染拡大 医療崩壊の危機に直面 宮崎県が「医療非常事態宣言」発令

<https://news.yahoo.co.jp/articles/3966332b1ab19f685f179b63167902b7fbc6c083>

● お盆の移動や帰省先で 専門家に聞く「シーン別の注意点」は？〈新型コロナ〉

<https://news.yahoo.co.jp/articles/cd5965135043595ed2c4c5501c3eafc04357a69e>

今日のPDF紹介下線をクリック

● [コロナに感染した医師が今、伝えたいこと](#)

● [コロナ第7波で子供の感染2・2倍…小児病床は綱渡り、手術延期も](#)

● [コロナ感染したのに約3割が“職場に申告せず”理由は「手続きが面倒」「フルリモート」](#)